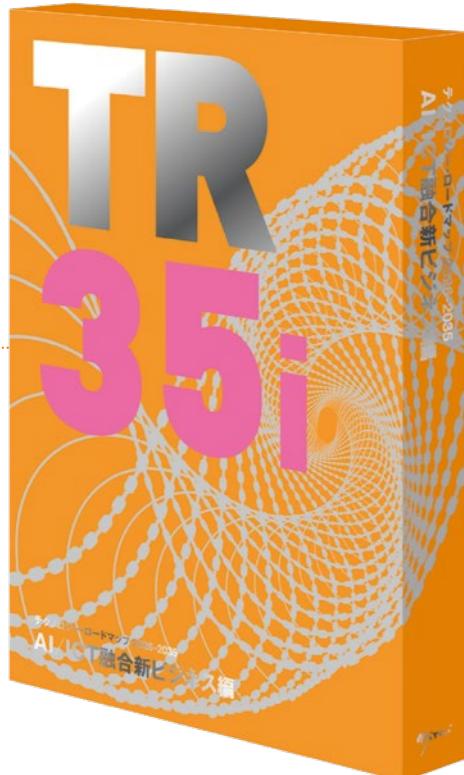




テクノロジー・ロードマップ 2026-2035 AI/ICT融合新ビジネス編



「社会基盤」「マーケティング・広告」「医療・ヘルスケア」「教育」「経営・労働」「金融」「製造業」…
AI時代に生まれる新ビジネスの未来を見通す。

『テクノロジー・ロードマップ2026-2035 AI/ICT融合新ビジネス編』は、AI(人工知能)の時代に生まれる新たなビジネスの将来像を見通すレポートです。AI活用の成否はAIに読ませるデータの種類・質・量にかかっています。本レポートは特にパーソナルデータの活用に注目し、「社会基盤」「マーケティング・広告」「医療・ヘルスケア」「教育」「経営・労働」「金融」「製造業」といった領域で生まれる新ビジネスに関する50テーマを取り上げます。各テーマについて今後10年間の「市場ニーズ」を展望し、ニーズを満たす「商品機能」を明確にし、機能を実現する「技術」の進展を展望します。パーソナルデータに注目するのは新ビジネスを生み出す期待が高いからです。個人が特定できない形でパーソナルデータの利用を促進するサービスや法制度が整いつつあります。新ビジネスの成否は技術に加え、社会すなわち個人と事業者の意向に大きく左右されます。そこでAIとパーソナルデータの利用に関するビジネスパーソン向けアンケートを実施、その結果を収録、利用者の意向も含めて今後10年を展望します。

- 著者：緒方 真一 ほか約40名
- 2026年2月13日発行
- レポート：A4判、約250ページ
- 価格
 - 書籍とオンラインサービスのセット：990,000円（10%税込）
 - 書籍のみ：660,000円（10%税込）
- 発行：日経BP

テクノロジー・ロードマップ2026-2035 AI/ICT融合新ビジネス編 [目次]

※目次は変更になる場合があります。

序章
「テクノロジー・ロードマップ」の考え方と活用法
総論：データ活用とビジネス

第1章 基盤・社会インフラ

あらゆるデータ活用のための社会基盤が整備され、ハードインフラの整備や運用にもデータやAIの活用が進む。データ活用に向け、あらゆるものや人にIDを付与するデジタルIDが進む。これらのデータとAIの活用により新事業創出や人間の新しい可能性が拓かれる。

- 1-1. 政府DX
- 1-2. AIとインフラ
- 1-3. 次世代社会基盤とIT
- 1-4. デジタルID
- 1-5. 人流データ活用
(ロケーション・インテリジェンス)
- 1-6. データ取引市場
- 1-7. データ連携
- 1-8. AIとの協調・融合による認知拡張



第2章 持続可能な地域社会

人口減少や少子高齢化といった地域社会の課題解決に向け、効率化や価値創出につながるデータ活用がそれぞれの地域に合わせた形で進む。そのベースとなる地域DXのほか、地域交通をはじめとしたモビリティや災害対応、不動産などにもデータやAIの活用が不可欠となる。

- 2-1. 地域DX
- 2-2. 地域モビリティー
- 2-3. 防災DX
- 2-4. 不動産とAI
- 2-5. 老朽化対策



第3章 生活・消費者
それぞれの生活者の利便性や暮らしやすさ、幸福につながるデータやAI、ロボットの活用が進む。生活者や消費者の個人のデータを本人の判断に合わせて活用する。サイバー空間と現実空間の区別がシームレスとなり、誰もがAIを自在に使いこなし、自身の生活環境を自分で作り替える世界が到来する。

- 3-1. 生活者プラットフォーム
- 3-2. ホームセキュリティ
- 3-3. 見守り/宅内外センシング
- 3-4. 生活を支えるAIエージェント
- 3-5. サイバーフィジカルな現実を生きる
- 3-6. 人間拡張
- 3-7. パートナーロボット



第6章 教育

個人の学習情報などのデータ活用により、教育現場では誰もが自分で合った教育を受けられるようになる。AIを活用した学習サービスの提供が進む。学習歴やスキルのデジタル資格証明の普及により、国や地域を超えた学びや転職などもスムーズになる。

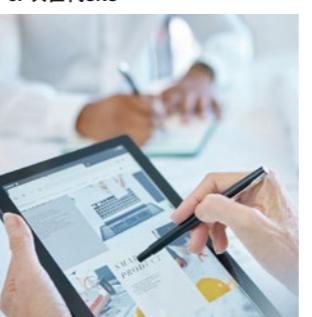
- 6-1. 教育とAI
- 6-2. 教育とICT(EdTech)
- 6-3. 学術機関のデジタル資格証明



第4章 マーケティング・広告・メディア

AIが顧客の感情や行動を予測し、最適な広告を自動生成。ブレインマーケティングが一般化し、感情に訴えかける広告が主流に。マルチモーダル広告が没入型メディアで展開され、次世代SNSが新たなコミュニケーションを創出する。

- 4-1. アダプティブマーケティング
- 4-2. マーケティングDX
- 4-3. ブレインマーケティング
- 4-4. マルチモーダル広告
- 4-5. 没入型メディア
- 4-6. 次世代SNS



第7章 経営・労働

労働力不足や高効率化への要望を背景に、製造業を中心にデータやAI、ロボットを活用した業務の自動化・自律化や、熟練者の技能のデジタル伝承などが進む。AIエージェントの活用などで、従業員のウェルビーイング向上の支援が進展する。

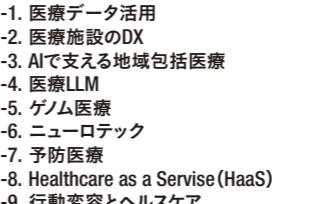
- 7-1. ウェルビーイング経営・健康経営
- 7-2. 熟練者の技のデジタル伝承
- 7-3. 業務の自動化と自律化
- 7-4. インクルーシブ・テクノロジー



第5章 医療・ヘルスケア

診療情報や日常データも含むデータ基盤の整備が進み、データやAIの活用により、患者個人に合った医療の提供が進むほか、医療機関の経営や地域医療の持続性にもつながる。日常の健康管理でもこれらのデータ活用が進み、医療にかかる前に健康を保つヘルスケア市場が大きく拡大する。

- 5-1. 医療データ活用
- 5-2. 医療施設のDX
- 5-3. AIで支える地域包括医療
- 5-4. 医療LLM
- 5-5. ゲノム医療
- 5-6. ニューロティック
- 5-7. 予防医療
- 5-8. Healthcare as a Service(HaaS)
- 5-9. 行動変容とヘルスケア



第8章 金融

AI活用により金融市場を予測、最適な投資戦略を自動生成したり、リスクを管理し、安定的な資産運用を支援したりする動きが加速する。AIによるクレジットスコアリングが、個人の信用力を正確に評価する。

- 8-1. 金融とAI



8-2. 自律的金融エンタープライズAI
8-3. クレジットスコアリング



第9章 農業・製造業
いずれも人手不足を背景に、データとAIを活用した生産性向上と供給網の強靭化が進む。AIとロボットの組み合わせにより、省力・省人化が加速する。製造業ではPoint of Use(使用時点)情報のニーズが高まり、センシングやネットワークも組み合わせてデータ活用が進む。

- 9-1. スマート農業とデータ活用
- 9-2. スマートものづくり
- 9-3. 製造とAI
- 9-4. 省力・省人化
- 9-5. Point of Useプラットフォーム



第10章 AIとパーソナルデータ利活用調査

AIの進展は早く今後10年の予測は難しいが、現時点のユーザー・ビジネス・ソーシャルの意見から、今後の方針が見えてくることもある。そこで、AIとパーソナルデータ利活用の現状と未来展望についてアンケート調査を行った。

- 10-1. 調査の概要
- 10-2. ユーザーとして姿勢や考え方
- 10-3. 勤め先でのパーソナルデータ利活用
- 10-4. パーソナルデータ利活用の課題と法制度
- 10-5. AI開発・活用とパーソナルデータ
- 10-6. AIとパーソナルデータ利活用の未来展望



※写真はイメージです。本レポートに掲載しているものではありません。